横浜市立橘中学校
平成３０年度　学力向上アクションプラン

１ 学校の状況と地域の実態

（１）授業に自分の考えを発表する生徒が多いなか、１時間の授業に集中できない生徒もいる。家庭学習が習慣となっている生徒が少ないので、家庭学習の大切さを伝えていく必要がある。

（２）礼儀正しい生徒が多いなか、礼儀やモラルに対する意識を高めていく必要のある生徒もいる。全校生徒のうち約 70%が部活動に加入している。そのため、放課後を利用した補充的な学習サポートは実施している教科が少ない。

（３）職員の 40%近くが教職経験 10 年未満である。研究授業や実践的な研修を通じて、今後も授業力の向上に取り組んでいく必要がある。

（４）夏季休業中に行われる夏講座や定期テスト前に行われる教育相談の時間を今後も設定し、個々の課題に対し、解決できるよう支援していく必要がある。

（５）特別支援教育推進のために校内指導体制を構築し、関係機関との連携をはかり、保護者の理解を得ながら、個に応じた指導・支援を充実させる必要がある。

２ 今後３年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成 30 年度末の姿）

〇大人になっても必要とされる力である「想像する力」「やりとげる力」を全教育活動を通して生徒自ら身につけていく。

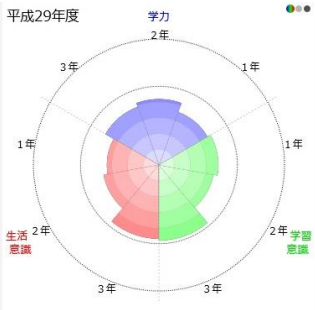
〇小中交流を推進し「学力観」「指導観」の共有化を図り、９年間の一貫カリキュラムの実践と改善が推進されている。

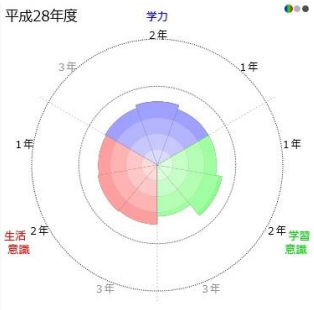
〇個に応じた教育を推進し、全教育活動を通して生徒に寄り添う指導の実現。

３ 横浜市学力学習状況調査等からの平成２９年度の実態把握

（１）学力の概要と要因の分析

一部の教科を除くと全体的に、横浜市の平均を下回る状況にある。昨年度の１・２年の生活意識は市平均並みか下回っている。学習意識も、全学年市平均よりやや下回っている。教職員が授業力向上のために、研究授業や校内外の研修等に意欲的に取り組んでいる現状はあるが、今後はその成果を生徒に還元し、学力向上へつなげていくための組織的取組が必要と考えられる。





（２）教科学習の状況

〇国語科：相手の発言を注意して聞き、内容を総合的にとらえることに課題。

〇社会科：学習意識は市の平均を越えて高い。基礎的な知識の定着が課題である。

〇数学科：全学年で、基礎的な計算力はあるが、見方や考え方の観点に課題。

〇理　科：思考・表現の観点が、全学年市平均より下回っている。特に地学分野に課題。

〇外国語科：学習への意識づけと基礎的な知識の定着が課題である。

（３）経年変化の状況と要因の分析

「学校の授業が分かりやすいですか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が昨年度より増加している。また、「自分にはよいところがありますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合が増加している。授業、行事、部活動などの取り組みの成果により、自己肯定感が高まっていることが考えられる。各学年ともに基礎学力が横浜市の平均を下回っていることから、授業と朝学習の時間を活用し、基礎学力の定着を促していく必要がある。生徒の実態に応じた課題プリントで行うことで、基礎基本の定着を図れると考えている。また、規準に基づいた評価、評定、定期試験の作問についても全教科、全職員が共通理解のもと、さらに取り組んでいく。試験問題や評価の精度を上げていくことで、生徒の学習意欲の向上を図っていけると考えている。規範意識も昨年度よりも向上しているが、今後もルールやマナーを守るよう支援することも大切である。今年度も、朝学習と並行して、朝読書により、語彙力や読解力の向上を図り、基礎基本の底上げを行っていきたい。

４ 平成３０年度　目標と具体的方策

平成３０年度　目標

学習に自ら意欲的に取り組む生徒を育むために、個々の教師の授業力向上を図り、分かりやすい授業を行うための研究や研修を充実させる。

（１）学校組織としての共通の取組

○一人ひとりに応じた指導・支援の充実

横浜版学習指導要領の「補充的・基礎的・発展的内容」の活用による学力向上を図り、連絡票や学習支援カードなどは、生徒一人ひとりの学習状況や達成度をわかりやすく示し、活用しやすくする。また、教科によって少人数学習を実施し、個に応じた指導・支援の充実を目指し、「確かな学力」の定着を図る。

朝学習を通して、学力評価にとらわれない学習への取り組む姿勢や態度を育てる機会をつくる。

○教科指導の充実

個々の教員の指導力向上のために週１回教科会や校内授業研究を開催し、指導力向上やカリキュラムの共通理解を図る。

○学校と家庭・地域の連携

小中一貫カリキュラムを基に基礎・補充・発展を取り入れた授業の実践を適切に行うとともに、家庭や地域に向けての授業公開や地域の方が参加する行事を充実させる。保護者や地域への授業公開を年８回以上実施し、体育祭や橘響祭（合唱祭）など、地域の方が行事に参加する機会を設ける。

（２）学年・教科等としての取組

○ 一人ひとりに応じた指導・支援の充実

国語

○漢字および語句の基礎的な内容を計画的に学習させ、確実に身に着くよう繰り返し練習させる。
○校外学習や実生活と関連付けた言語活動を設定し、身につけた国語力を実践できるよう工夫する。

数学

○単元の途中で小テストを行い，章の終了時には章末テストを実施し，一人ひとりの理解度を把握する。
○言語活動を重視した活動を積極的に授業の中に取り入れ、学習した知識を活用する機会を充実させる。

音楽

○歌唱表現の指導に重点をおき、思いや意図を自分なりに表現できる活動ができるよう工夫をする。
○鑑賞ではより魅力的な教材で学びの意欲を高め、主体的に音楽を味わおうとする授業展開を工夫する。

技術・家庭

○小学校や他教科での既習事項を把握し、基礎・補充を取り入れた授業を実践し、連続的な深い学びに繋げる。
○学んだ知識を活かした問題解決が行えるように、課題解決に向かう学習活動を行う。

個別支援学級

○生徒が持つ能力や可能性を引き出し、それを最大限に伸ばすとともに、生活の質を高いものにしていけるよう支援する。
○社会生活を送るのに必要な知識・技能が身につくよう支援する。
○個に応じた支援ができるよう、生徒本人の考えを取り入れながら、家庭および地域との連携を密にして、個別教育計画を進めていく。

社会

○発言やレポートなど自らの考えを発表する機会を増やし、社会的思考力を高める授業を展開する。
○毎回の授業や朝学習で基礎的知識の復習を行う。
○視覚的にとらえられるよう教材・教具を工夫し、内容の理解を深める授業を展開する。
○発表やグループワークで言語活動の能力を育成していく

理科

○ノートや学習シートを工夫し、授業の復習に能率よく取り組めるような家庭学習を計画的に行う。
○科学的事象について、話し合い活動の場を設け、自分の考えを発表する活動を設定し、表現力を養う。

美術

○美しいものを創造する喜びや、美術を愛好する気持ちを育み、感動する豊かな心を育てる。
○自分の素晴らしさに気づき、周りの人の個性を認め、一人ひとりが安心して制作できる授業の展開をする。

外国語

○一人ひとりの学習状況を把握するために、こまめに小テストを実施し、補習や手立ての工夫を計画する。
○学んだ知識を活用する場を多くし、実生活に役立つ言語活動を計画的に取り入れる。

総合的な学習の時間

○体験的な学習を通して職業理解を深め、生きがいのある生活を送ろうとする意欲を持たせる。
○様々な人たちとのコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築こうとする態度を育てる。

特別活動

○生徒と生徒、教師と生徒間の豊かな人間関係を築くために、行事や学級活動の充実を図る。
○生徒の発達段階に応じた指導を行うことで、自己を肯定し向上させる力を育てる。